

考古資料

グロートコレクション

どぐう
土偶

出土地：花輪台貝塚
時代区分：縄文時代早期
発掘年：1946年

縦約5cm、横約2.5cmと小さな土偶です。
顔や模様は描かれていません。
「もし自分が描くなら・・・」
とイメージすると面白いですよ。



↑表面



裏面→

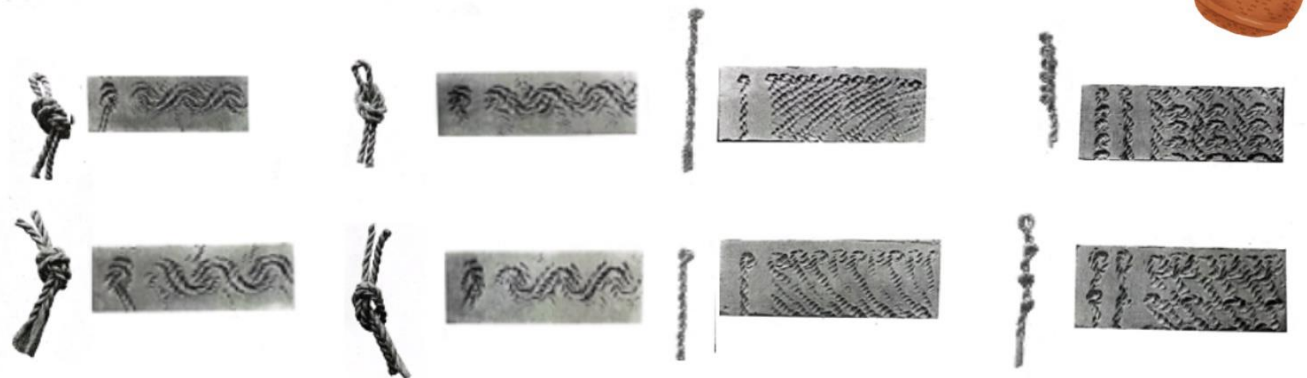
ふかばち どきへん
深鉢 土器片

出土地：ニツ木貝塚

年代区分：縄文時代前期

発掘年：1950年

この模様は
どうやってつけられたんだろう？





南山の考古学研究

つぼがたどき
壺形土器



出土地：西志賀遺跡
時代区分：弥生時代前期
発掘年：戦前
(寄贈品)

曲線が美しいつぼ型の土器です。
削って盛り上がった線の模様が特徴です。

かめがたどき

甕形土器



出土地：西志賀遺跡

時代区分：弥生時代前期

発掘年：戦前

(寄贈品)

底が小さい甕形の土器です。
全身にある細い線の模様は
場所によって角度がかき分け
られています。

かいがどき

絵画土器



出土地：西尾市 清水遺跡
時代区分：古墳時代前期
発掘年：1950年

手のひらに収まるくらいの小さな土器です。正面には草花のような模様が描かれており、作られた当初はどんな模様だったのか、想像が膨らみます。

かたむ

つぼがたどき

傾いた壺型土器



出土地：高蔵遺跡

出土区分：弥生時代後期

発掘年：1956年

上部分に文様があり、土器が全体的に傾いているのが特徴的です。不安定そうに見えますが、底に平らな面があるので安定して置くことができます。

かめかん
甕棺



出土地：九州地方
時代区分：弥生時代中期
発掘年：不明
(寄贈品)

シンプルな造りで、焼いた後
にあげられた下の穴がポイント
です。



えんとうはにわ

円筒埴輪

出土地：断夫山古墳

時代区分：古墳時代中期

発掘年：不明

(寄贈品)

円筒埴輪の起源は数ある埴輪の中でいちばん古くからあるもので、弥生時代後期にまでさかのぼります。もともとはお供え用の壺をのせる器台だったそうですよ。